

RFMD ニュース



rfmd.com

会社連絡先:

RF Micro Devices Inc.

Brian K. Cockman, Public Relations Specialist

7628 Thorndike Road

Greensboro, NC 27409-9421, USA

電話: +1 (336) 678-8945

bcockman@rfmd.com

RFMD 社、3GSM ワールド कांग्रेसで画期的なセルフ・シールド技術を公開

RFMD 社のセルフ・シールド・プロセスで RF システムの性能向上と RF 部品の実装の大幅な単純化が実現

ノースカロライナ州グリーンズボロ、2007年2月13日: 移動通信駆動用各種アプリケーション向けの高性能無線システム/ソリューションを設計、製造し業界をリードするRFMD社(ナスダック:RFMD)は本日、画期的なRF回路のセルフ・シールド技術を発表した。RFMD社のセルフ・シールド技術は、RFICやRFモジュールに高周波(RF)のシールドを内蔵させることにより外部のシールド構造を不要にするもの。これによりRF部分に必要な容積が30%~50%も小さくなり、同時にRF部品の配置上の制約が少なくなる。

RF部分のシールドは、携帯端末のコストやサイズ、実装の容易さを左右する重要な要素となっている。端末内の他の部分に不要な高周波エネルギーが漏れないよう、一般にRF信号の送受信を行う回路にはシールドが施されている。このため、従来は回路基板上のRF部分を囲い込んでシールドする金属ケースが使われてきた。RF系のシールドに使う金属ケースは個々の回路基板に合わせたカスタム設計が必要なため、RFシールドの実装には多くの費用と時間がかかっていた。さらに、外部RFシールドのためRF部分に大きなスペースが必要とされただけでなく、シールドによるRF回路への悪影響の可能性から、その影響を打ち消すためにシールドされた回路部分の再チューニングも必要となる場合があった。

RFMD社のセルフ・シールド技術により、基板上の配置に対する感受性が解消され、同時に回路の再チューニングのリスクも回避されるため、携帯端末の市場投入リードタイムが短く、RF系の実装コストが小さくなる。RFMD社のセルフ・シールド技術はRFMD社のすべての製品に適用可能で、その最初の実現例がPOLARIS™ 3 TOTAL RADIO™ソリューションとなる。

RFMD社の研究開発担当副社長、Victor Steel氏は語る。「高周波シールドに関する当社の革新的な技術により、端末メーカーはRF回路を他の部品と同様、自由に配置できるようになります。当社のセルフ・シールド技術を採用する端末メーカーはRF性能の向上やトータル・コストの低減、基板上の省スペース化が可能で、同時にRF系の実装が全体として非常に容易になります。ローエンドの端末から多機能3Gマルチモード端末に至るまで、これら要素はすべて端末設計上の重要な要素です。」

RFMD 社について RF Micro Devices, Inc. (NASDAQ RFMD)社は移動通信の主要アプリケーション向けに高性能な無線システム/ソリューションの設計、製造を行う会社で、この業界のグローバル・リーダー。RFMD 社のパワーアンプ、送信モジュール、携帯電話用トランシーバ、およびシステム・オン・チップ(SOC)ソリューションは現在および次世代の携帯端末、基地局、無線ローカルエリアネットワーク(WLAN)、無線パーソ

ナルエリアネットワーク(WPAN)、全地球測位システム(GPS)などの最新機能をサポートし、全世界的なモバイル性の向上と接続性の拡大に寄与するもの。最先端の半導体技術による幅広い製品ラインと無線システムの豊富な経験で定評のある RFMD 社は、現在および将来の市場要求を満たす最新無線機能のサプライヤーとして、世界中の主要な移動通信機器メーカーから選ばれている。

ノースカロライナ州グリーンズボロに本社を置く RFMD 社は ISO 9001 および ISO 14001 の認証取得済みのメーカーで、世界各地にエンジニアリング、設計、販売、サービスの拠点を持つ。RFMD 社は RFMD 銘柄で米ナスダックグローバルセレクト市場に上場しています。なお詳しい情報は RFMD 社のホームページ、www.rfmd.com に紹介されている。

このプレスリリースには、1995 年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act) がその免責条項として定める「将来的な予測」が含まれています。この「将来的な予測」には当社の計画、目的、説明、主張などについて、またはそれ以外についての記述が含まれていますが、これらの記述は歴史的な事実ではなく、通常は「可能」、「必要」、「予測」、「期待」、「予定」、「計画」、「推測」、「確信」、「推定」、「予想」、「可能性」、「継続」などの用語や類似の用語とともに使用されています。またこれらとは別の表現で「将来的な予測」が記述される場合もあります。この文書に含まれている「将来的な予測」の記述は現時点における経営陣の判断や期待を表していますが、実際の成果や出来事、業績などはこれら記述で表現されたり暗示されたりした内容とは実質的に異なる場合もあります。当社は米国連邦証券取引法により要求される場合を除き、これら「将来的な予測」の記述内容を改訂したり、あるいはその記述の改訂を公表したりする意図を持っていません。RF マイクロデバイセス社の事業には多くのリスクや不確実性が内在しており、その内容には四半期毎の経営成果の変動、無線関連市場の発展や成長率、ウェハ製造施設、分子線エピタキシー施設、組み立て施設、試験、テープ、リール施設など各種製造施設の稼働に関するリスク、熟練技術者や開発リーダーを採用・確保する当社の能力、生産歩留りの変動、革新的技術によりコストを削減し正味利益率を改善する能力、新製品を市場に投入する能力、顧客の在庫センターを通して行う委託販売への依存性、製品需要に即応したタイムリーな生産能力の調整を行う能力、限られた顧客への依存性、サードパーティへの依存性などが含まれています。上記以外も含むこれらリスクや不確実性については米国証券取引委員会の様式 10-K に従った RF マイクロデバイセス社の最新アニュアルレポートの中で説明されていますが、このような不確実性のため、これら記述の表現や暗示による内容と実際の成果や出来事、業績とは実質的に異なる場合があります。

RF MICRO DEVICES® および RFMD® は RFMD, LLC の商標である。その他の商品名、商標、登録商標はそれぞれの所有者の財産である。

###